

京都建築事務所

想いをカタチに、想い以上の感動を



株式会社 京都建築事務所
代表取締役社長 細見 建司

〒604-8083

京都市中京区三条通柳馬場東入
中之町 10 番地

TEL:075-211-7277

FAX:075-211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>



医療福祉施設の新築、増築、改修等、お気軽にお問合せください。

総合社会福祉研究所 会議室貸出のご案内

各天王寺駅
下車すぐ!!

○会議やグループワークに最適！

最大 24 名着席可能（丸テーブルに 8 人着席×3 つ）なスペースに加え、エアコン、ホワイトボード、ディスプレイ、有線 LAN、Wi-Fi を備えています。

○社会福祉実践、研究関連の蔵書もたくさん！

社会福祉の実践、研究関連の蔵書が豊富にあり、貸し出しも行っております。

【場所】大阪市天王寺区悲田院町 8-12 国労南近畿会館 1 階

（各天王寺駅から徒歩 5 分）

【利用時間】9 時 30 分～17 時 30 まで（以降のご利用は相談ください。）

【利用日】月曜日～金曜日（土・日・祝日にご利用される場合は、ご相談ください。）

【利用料金】（3 時間制）当研究所 会員 3000 円・非会員 4000 円

申込み
お問い合わせ

総合社会福祉研究所

TEL06-6779-4894 FAX06-6779-4895

<http://www.sosyaken.jp/> E-mail: mail@sosyaken.jp

A Disabled-dancer



Disabled—「障害者」という言葉はあえて使う、というのが森田かずよさん（写真）のスタンスです。障害者と健常者が一緒に踊るのが「インクルーシブダンス」という分野ですが、ただただスタジオに一緒にいて、同じ空間で同じダンサーとして、作品を一緒につくっていくということに関しては、障害者も健常者も違いはないはずです。



森田かずよさんは、先天性の障害である「二分脊椎症・先天性奇形・側弯症」をもって生まれています。片足が変形しており、義足を着用して踊ります。義足は彼女のトレードマークであり、「個性」です。インクルーシブダンスの舞台では、この義足は観客の目を惹く「武器」になります。





森田さんの踊りはコンテンポラリーダンスに分類され、非常に繊細な表現をとまいます。感傷的な音楽が流れるなかおこなわれる身体表現は、純粋に芸術として観る者を魅了します。「vulnerability = 脆弱性」とは異なる繊細さや儚さ^{はかな}がともなう表現活動に、健常者であるとか障害者であるといった境界線は存在しないはずです。少なくとも舞台の上においては。





ダンスという表現形式を通して、多くの人々に根ざす障害者に対する潜在認識^{くつがえ}を覆せれば、森田さんの活動は一定の成果を得ることができるし、おそらく、森田さんの活動の社会的意義はそこにあるはずです。ダンスというものは本来、身体を自由に動かし、精神を解放することを眼目とする表現形式です。障害者が踊って何が悪いのか、むしろ、健常者以上に踊るべきです。踊って身体を自由にし、踊ることで精神を解放すべきだというのが踊る人間の本義であり、願いではないでしょうか。

(写真・文 大島智広)

●特集● 「平和」を見失わないために
教育と福祉から問いつける

被爆体験を聞き、平和について考え、自分の言葉で話す	10
音楽をとおして、子どもたちと平和を考えたい	輪島 扇歌 14
福祉の世界から、戦争へと向かう社会に抗うために	藤井 渉 18
元イスラエル軍兵士が伝える、平和のために必要なこと	
	ダニー・ネフセタイ 22
核兵器も戦争もない世界をめざして	大村 義則 28

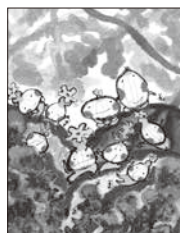
●トピックス●

「いのちのとりで裁判」 最高裁で原告勝訴！	申 佳弥 32
“不断の努力”をこれまでも、これからも	申 佳弥 36
——障害者自立支援法違憲訴訟基本合意から15年をふり返って	
SNS時代に考える選挙のあり方	富田 宏治 40
第30回社会福祉研究交流集会in能登のご案内	44

●連載●

阪神・淡路大震災発生から30年 第5回	正井 禮子 48
災害時の女性への暴力、人権侵害とたたかって（前編）	
なかまと職員と家族と、ともに築く暮らしの場	
「グループホームに泊まらない」の背景にあるもの	中川かずこ・渡邊照予 52
続・ヘルパー歳時記 「その人らしい暮らし」とは①	56
WORK WORK——わくワク——	
心を射すしろつめの特選茶 就労継続支援B型事業所しろつめ	60
JOB&ACTION 全国福祉保育労働組合（53）	
政府交渉で現場実態を伝え、改善せまる	62
私の履歴書 社会福祉経営全国会議（53）	
子どもを預ける側から預かる側に	青木 久 64
阿修羅がゆく わたしが好きな釜ヶ崎（73）	水野阿修羅 66
育つ風景	
保育園の一時保育から地域の子育てとつながる	清水 玲子 68
映画案内 『万引き家族』	吉村 英夫 70
現代の貧困を訪ねて	生田 武志 72
大原孫三郎・總一郎、山川均・菊江、石井十次（その2）	
似らすとれーしょん道場 似顔絵まんがアート	
コメ大臣じゃ！	ラッキー植松 74
ホームレスから日本を見れば	ありむら潜 76
花咲け！ 男やもめ	川口モトコ 77

●表紙の絵●
神門やす子



「原爆の絵」

記憶を描き、継承する高校生たち

広島市立基町高等学校美術科 嘱託講師 福本 弥生

広島市立基町^{もとまち}高校で「次世代と描く原爆の絵」（以下、「原爆の絵」）の活動がはじまったのは、二〇〇七年のことです。私はその前年の二〇〇六年から同校で嘱託講師として勤務しており、この活動の立ち上げからかわつてきました。当時、創造表現コースの主任教諭であった橋本^{はしもと}一貫^{かずみ}先生が、広島平和記念資料館から「原爆の絵」制作の依頼を受けたことがきっかけで、私もそのサポート役としてともに指導にあたることになりました。橋本先生は現在定年退職されましたが、資料館からの依頼は継続しており、「原爆の絵」の制作に参加したいという生徒も毎年いるため、活動は今も引き継がれています。

「原爆の絵」の活動は、広島平和記念資料館で被爆体験証言者（以下、証言者）として活動される方の証言活動に役立てていただくため、証言者の記憶に強く残る光景を絵に描くという活動で、毎年一〇月ごろからはじまります。証言者の記憶に残る被爆時の光景を聞き出し、具体的にイメージし、どのように描くのか、戦争も原爆も体験していない生徒たちにとって、それは決して容易なことではありません。そのため、証言者とも何度も打ち合わせを重ね、ていねいに対話をしながら制作を進めていきます。さらに、生徒たちは自ら資料館に足を運び、書籍や映像資料等を活用して情報を集めたり、登場人物のいるシーンを再現するために、家族や友人に絵のモデルになるよう依頼して、写真を撮るなどして参考にし、細部まで丹念に描きあげていきます。こうして、半年から約八か月かけて「原爆の絵」が完成します。

完成した絵は、毎年夏と冬に、平和記念公園内の広島国際会議場で展示されています。展示期間中には多くの市民や観光客などが訪れ、会期中におこなうギャラリートークで



ふくもと やよい

広島市立基町高等学校創造表現コース卒業（第1期生）。広島大学教育学部生涯活動教育系造形芸術系コース（美術）卒業後、母校である基町高校嘱託講師として勤務。2007年より教諭の橋本一貫氏と共に「次世代と描く原爆の絵」の指導を担当。日展特選。現在、日展会友、光風会会員、基町高校美術部OB桐美会。

は、生徒たち自身が制作の背景や証言者とのやり取り、作品に込めた思いなどを来場者に伝えていきます。また、修学旅行などで訪れる全国の中高生との交流や、講演会にも参加しています。

この活動を通じて、生徒たちは被爆者の体験や感情をより深く理解し、単なる「描写」ではなく、「思いの受け取り手」として他者と向き合う姿勢や、自分の作品や平和への思いを言葉で伝える力、人の思いを受け止める感性を育んでいきます。そうした生徒の姿を見て、この活動が彼らにとつてどれほど大きな学びとなつていくかを実感しますし、私自身もこの仕事に大きなやりがいを感じています。

被爆者の高齢化がすすむなか、この活動をいつまでつづけられるのかはわかりません。しかし、「〔原爆の絵〕を」描いてほしい」と願う方がいる限り、その声に応えて描きつづけることには、今なお大きな意味があると感じています。

「被爆者から直接話が聞けなくなつても、手記や動画があるのだから、それを見て描けばいいのではないか」と言われることもあります。たしかに、そうした資料を活用すれば、ある程度の再現は可能かもしれません。けれども、「原爆の絵」制作の根幹にあるのは、高校生と証言者が直接対話し、そのなかで証言者の思いを汲み取り、絵として描きあげていくという過程であり、その対話の積み重ねこそが、生徒たちの心に深く残り、原爆・戦争の真相について真剣に考えるようになるのです。「原爆の絵」の制作は、単なる記録や再現ではなく、次世代への平和の願いの継承そのものであると、私は信じています。

（聞き手 黄）

「平和」を見失わないために 教育と福祉から問いつづける

朝食を食べながら見るニュースで毎日のように報道される爆撃のようすを前に、小学校三年生の娘に、「どうしたら戦争は止められると思う?」と聞いてみました。以下、娘のこたえです。「クラスにも、すぐに手を出してよくケンカする子っているやん。コウタもすぐに手が出るからみんな怖がったりやり返したりするけど、私とか保育園から一緒の子らはべつにコウタのこと怖くないし、コウタも私らにはいいわるしたりせーへんねん。だから、なんかトラブルがあつたら、私とかが間に入って止めたり話し合ったりするねん。そうやって間に入れる人がいたら、戦争も止められるんじゃない? なんで子どもでもできるのに、大人ができへんの?」。

また、「相手が先に攻撃してきたら、やり返す?」と聞くと、「やり返さない。やり返して戦争になったら、絶対に死ぬ人が増えるし、まちも壊れるやろ? だれか一人でも死んだら勝ってもうれしくない。し

あわせじゃない。そんなんどっちも負けやん」と。こんなにしっかり答えが返ってくるとは思っていなかった。おどろき感心しつつ、あらためて、「戦争しないために軍拡が必要」はまちがいだと、娘に確信をもらったように思います。

軍拡してまわりをけん制しつつ、万が一戦争になったときに兵士を犠牲にして国民を守るように軍事力を増強するのだというのは、決して平和のための準備ではありません。平和とは、戦争による犠牲者を一人も出さないことです。「一人でも死んだら、どっちも負け」という娘の言葉は、自分の人権も相手の人権も、すべての人のいのちと人権を守ることが、人間がもっとも大切にしなければいけないことだという意味でしょう。まさに平和の理念であり、福祉の理念だと思います。

毎日のように人が人を攻撃し殺害するようすが報道され、軍拡は避けられないかのような雰囲気広がりがつつあるいまだからこそ、あらためて、人間がもっとも大切にしなければいけないことはなにか、平和とはなにかを問い直す必要があると思います。戦争の背景には、戦争で儲かる人たち、自分さえよければいいと立場を守ろうとする人たちの存在があります。人のいのちより自分や自国の利益を優先する価値観に抗えるのは、子どもや障害のある人、お年寄りのいのちと日々の暮らし、人権、発達を保障するために日々奮闘している社会福祉の実践であり、価値観だと思います。

(編集主任・申 佳弥)